

# 平成29年度 学校評価総括評価表

## 徳島県立徳島視覚支援学校

### (1) 重点課題

視覚支援学校と聴覚支援学校が、「つながる」を合い言葉として連携・協働することにより、「幼児・児童生徒の夢と希望につながる保育・教育」を推進する。

#### 1 学びがにつながる

視覚支援学校と聴覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が、互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進することにより、豊かな心を育む。

#### 2 未来につながる

幼稚部から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。

#### 3 地域とつながる

特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある乳幼児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をおとした活動を支援します。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守る。

#### 4 心につながる

思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。

### (2) 重点目標

- ① 視覚障がい教育に関する研修と公開授業、OJTによる授業力の向上等により、教職員の専門性を向上します。
- ② 点字教材と触察教材の充実を図ることにより、一人一人の見え方に対応した教育を推進します。
- ③ 支援機器等教材を積極的に活用することにより、指導方法の充実を図ります。
- ④ 特別支援教育センターとしての機能を十分に発揮し、視覚障がい等のある乳幼児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開します。
- ⑤ 幼児・児童生徒一人一人の人権を最大限に尊重するとともに、全教職員がいじめのない学校づくりに努めます。  
徳島視覚支援学校と徳島聴覚支援学校の連携・協働した学習や行事等の教育活動(4つのつながり)を基盤とし、一人一人が尊重される人権教育を推進します。
- ⑥ 幼児・児童生徒の発達段階をふまえたキャリア教育の推進を図ります。
- ⑦ 視覚支援学校と聴覚支援学校の幼児・児童生徒および教職員が、安心・安全な学校生活を送るための環境設定やルールづくりを推進します。
- ⑧ 聴覚支援学校との共同学習や行事への参加等により、ともに学ぶ教育の構築に向けた取り組みを推進します。
- ⑨ 教員と寄宿舎指導員による就業体験の引率をとおして、寄宿舎における生活指導の充実を図ります。
- ⑩ 防災避難施設として、地域の人々と連携した防災訓練等を行います。
- ⑪ 生涯学習の拠点として、視覚障がいのある人の活動を支援します。
- ⑫ 奉仕活動や環境・エネルギー活動、啓発活動をとおして、地域とのつながりを深めるとともに、視覚障がいに対する理解の推進を図ります。

重点課題	①学びがつながる				
	視覚支援学校と聴覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が、互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進することにより、豊かな心を育む。				
重点目標	⑦視覚支援学校と聴覚支援学校の幼児・児童生徒および教職員が、安心・安全な学校生活を送るための環境設定やルールづくりを推進します。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
寄宿舎	・両校の舎生が安心・安全な寄宿舎生活を送るための体制をつくる。	・各舎生の寄宿舎生活での困難さを見つけ、ランドマークを設置するなど各舎生に応じた環境整備をする。	・階段、廊下の手すりや部屋の入口にランドマークをつけたり、靴箱や給湯室の引き出しに印をつけたりした。随時、舎生の意見を取り入れながら改善を図っている。		
		・生活ルールについて両校合同自治会で、年3回以上発信を行い、舎内に表示等で注意喚起を促し、ルールの定着を図る。	・1学期の自治会では、2回互いの特性に応じた対応を両校の舎生に連絡した。また、階段や壁面に注意喚起を促す掲示をした。		
		・緊急時対応マニュアルを作成しマニュアルに沿った訓練を月に2回以上行い、定期的に見直す。	・緊急時マニュアルに添って月2回以上の訓練を行い、その都度話し合いを持ち改善を図っている。		
渉外・安全課	・幼児・児童生徒、教職員が安全に学校生活を送るために、校舎内外の環境を整える。	・ふれあいコーナー等の共有スペースについて、学校支援チームや人権・キャリア教育課、寮務主任と連携を図り、安全に活用できるよう、改善案を検討する。	・各部会で、環境や清掃についての意見を集約することを広報した。実際に意見が出ているので、課会で共通理解を図り、改善案を検討したい。また、今後も各部会で意見を募る予定である。		
		・各部会において、月に1回、環境や清掃についての意見を集約し、課会で、改善案を検討する。			

重点課題	①学びがにつながる 視覚支援学校と聴覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が、互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進することにより、豊かな心を育む。					
重点目標	⑧聴覚支援学校との共同学習や行事への参加等により、ともに学ぶ教育の構築に向けた取り組みを推進します。					
	具体的な活動計画	評価指標	評価 評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
幼稚園	・聴覚支援学校の幼稚部の幼児とかかわり合う保育活動を実施する。	・幼児の実態に応じて、一緒に給食を食べたり、自由遊びのときに場を共有して遊んだり、園庭の写真カードを遊びの選択肢に入れたりする。 ・自由遊びでの自然なかかわりを含め、季節の行事や日々の保育活動等での意図的なかかわりを年間12回以上実施する。 ・年に1人1回以上、聴覚支援学校幼稚部の保育を参観し、実態の共通理解を図る。	・幼児1名がランチルームと一緒に給食を食べたり、幼児2名と一緒にさつまいも畑の水やりをしたりした。遊びの時間に、園庭の写真カードを選択したことが1回あった。 ・五月人形の飾り付けやさつまいもの苗植え、水遊び、聴覚支援学校幼稚部の朝の会に参加をした。 ・聴覚支援学校幼稚部の保育参観はまだ実施できていないため、オープンスクール期間を活用して参観を行いたい。			
小学部	・聴覚支援学校小学部との親交や相互理解を深めるため、交流及び共同学習を実施する。	①交流給食を各学年で学期に1回程度行う。 ②学部間交流を年1回行う。 ③聴覚支援学校高学年児童との交流を年1回以上行う。 ・両校児童の対面式を5月中に実施する。	・①1回目の交流給食を5年生5/24、3年生6/14、2年生は7/6に実施した。1年生は2学期に実施予定。②7/18に実施し、手話を教わったり、チームと一緒に的当てゲームをして親睦を深めた。また本校児童が交流の最後に教わったばかりの手話を自ら使って「ありがとう」を伝える場面が見られた。③2、3学期に予定。 ・両校対面式を5月に実施した。名前カードを交換し、各校に掲示した。			
		・障がい種の異なる児童への相互理解を図るために両校教員間でケース会を年1回実施する。	・7/7に実施した。学部間交流を控え、両校児童の実態や留意点について情報交換を行った。			

<p>中学部</p>	<p>・聴覚支援学校中学部の生徒と、交流及び共同学習を通して、ともに協力して活動する。</p>	<p>・同学年での教科の合同授業や「点字ブロックの日」に関する交流及び共同学習等を年間3回実施する。</p> <p>・事前に教員間で、生徒に関する情報交換を行ったり、障がいに応じた手立てについて互いに学び合ったりする機会を持つ。</p>	<p>・対面式では互いに自己紹介し合った。その際、互いの学校の教員が、視覚障がい生徒のまぶしさや聴覚障がい生徒の表情の見えやすさに配慮した席の配置等について話し合いながら環境設定を行った。また、第3学年は理科の共同学習を行い、協力して水溶液の性質を調べる実験を行った。</p>			
<p>高等部 普通科</p>	<p>・聴覚支援学校生徒と合同で、清掃活動や「点字ブロックの日」理解啓発活動を行う。</p>	<p>・近隣や二軒屋駅周辺の清掃活動を年間2回以上実施する。</p> <p>・「点字ブロックの日」理解啓発活動で、事前に共同学習(意見交換や準備など)や徳島駅前での啓発用のティッシュ配りを行う。</p>	<p>・近隣の清掃活動を1回目を9月、2回目を11月に予定している。</p> <p>・3学期に「点字ブロックの日」理解啓発活動の準備やティッシュ配りを予定している。</p>			
<p>生徒活動課</p>	<p>・学校行事等について、聴覚支援学校との交流が進むよう計画を立て、ともに学ぶ教育の機会を設ける。</p>	<p>・第43回中国四国地区盲学校弁論大会校内選考会、文化祭などの学校行事等において、聴覚支援学校と年2回以上の交流が実施できるよう計画する。</p>	<p>・5月10日に、第43回中国四国地区盲学校弁論大会校内選考会を実施し、聴覚支援学校の中学部・高等部の生徒を招き、交流することができた。</p>			

重点課題	②未来につながる 幼稚園から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。					
重点目標	① 視覚障がい教育に関する研修と公開授業、OJTによる授業力の向上等により、教職員の専門性を向上します。					
	具体的な活動計画	評価指標	評価 評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
教務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>一貫教育体制を推進し、教職員の専門性向上をめざすため、教員の所属学部を超えた授業と、チームティーチングによる授業を実施する。生徒が進級した後も適切な支援・指導がスムーズに移行できる体制を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の所属学部を超えた授業とチームティーチングを実施できるよう、時間割を作成するとともに、情報共有するために、学部を超えた教科担当者会議を年に8回以上実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学部、高等部普通科、職業学科それぞれに所属する教員が、学部を超えて授業を担当する。また、教科担当者会議を6月までに7回実施し、生徒の実態や指導方法について検討を行った。</li> </ul>			
研究・情報課	<ul style="list-style-type: none"> <li>わかる授業をめざし、視覚障がい教育の専門性に根ざした授業実践に取り組むため、実際の授業や指導に役立つ実践的な内容のグループ研修を計画し、年間7回以上実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚障がい教育・点字(基礎)・点字(応用)・歩行・教材研究・ICTの各研修グループのうち、所属するグループの研修内容が授業や生活指導に役立つ内容であったかアンケートを実施し、80%の教員から「授業や生活志度運に役立つ内容であった」との回答を得る。</li> <li>研修資料等成果物を全教職員が閲覧できるように、校内イントラ等に保管及び周知を行い、情報共有する環境を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属グループの希望調査を実施し、全教員が5つのグループのいずれかに所属した。</li> <li>各グループで研修の年間計画を作成し、年8回の研修内容と担当者を決定した。</li> <li>1学期では計画通り3回研修を実施した。</li> <li>各グループの研修資料を保管するフォルダを校内イントラ内に作成し、研修担当者に資料の保管を周知した。</li> </ul>			

重点課題	②未来につながる 幼稚部から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。				
重点目標	②点字教材と触察教材の充実を図ることにより、一人一人の見え方に対応した教育を推進します。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
中学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態や学習内容に応じた点図教材や立体教材、半立体教材を作成し、授業に活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「点字等教材作成」担当教員との共同制作も含め、各教科、各生徒の実態に応じて年間15個教材を作成する。</li> <li>教材を使用した後、「自作教材シート」にまとめたり、点図データを保管したりして、閲覧できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学7個、理科3個、体育1個、総合的な学習の時間1個、自立活動1個、学活1個と、それぞれの授業の中で計14個の点図や立体教材、触地図等を自作し、生徒の学習理解に努めた。また、教材作成担当教員と協力し、夏季休業中の理科ドリルを点訳した。「自作教材シート」への記入は今後行う。</li> </ul>		

重点課題	②未来につながる 幼稚部から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。				
重点目標	③支援機器等教材を積極的に活用することにより、指導方法の充実を図ります。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
研究・情報課	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援機器等教材を効果的に活用した指導方法の充実をめざし、支援機器等教材を活用した公開・研究授業を延べ4回以上計画・実施するよう呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全公開・研究授業のうち4授業以上で支援機器等教材を活用した指導案が提示される。</li> <li>職朝にて研究・公開授業の連絡とコメントシートの入力进行を連絡する。</li> <li>公開・研究授業を80%の教員が参観し、コメントシートにて指導方法等の意見交換を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開・研究授業の実施者と実施時期の年間計画を作成した。</li> <li>1学期では計画通り公開授業が1回実施された。</li> <li>職朝で参観及びコメントシートの記入を周知した。</li> <li>コメントシートにより指導方法等の意見交換を行った。</li> </ul>		

重点課題	②未来につながる 幼稚園から小学部, 中学部, 高等部, 高等部専攻科における, 専門性の高い一貫した保育・教育により, 社会に主体的に参加し, 自立をめざす人を育てる。					
重点目標	⑥幼児・児童生徒の発達段階をふまえたキャリア教育の推進を図ります。					
	具体的な活動計画	評価指標	評価 評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
高等部 職業学 科	・卒業後の就職へ向け, 社会人・医療従事者として必要なスキルを身につけられるよう, 実習や授業を通してキャリア指導を行う。	・職業学科「個別のキャリア教育学習プログラム」を活用し, 個々のスキルを評価し, 教員間で共通理解を図り指導を行う。	・1学期の評価が終了し, 教員間の共通理解ができた。生徒個々の評価が低い項目について, 特に重点的に指導を行っている。			
人権・ キャリア 教育課	・幼稚園から高等部の幼児・児童生徒の社会的・職業的自立に向け, キャリア教育全体計画をもとに, それぞれの学部学科で実践する。	・幼稚園・小学部は, 勤労観の育成のため, 個別ファイルを活用して家庭の協力を得て, チャレンジウィークを実施する。90%以上の実施率を得る。	・夏季休業中にチャレンジウィークの実施を予定している。1学期の懇談で担任から保護者に説明や相談をして, 家庭の協力を得るようにする予定である。			
		・中学部は, 進路希望調査の実施と併せて, 学年に応じて仕事調べや職場見学, 職場体験を行う。	・進路希望調査を1学期に実施した。2学期, 3学期に1年は仕事調べや職場見学, 3年生は職場体験を実施する予定である。			
		・普通科は, 一人1回以上就業体験を実施する。	・1学期に個々の生徒の実態に応じた就業体験先で一人1回就業体験を実施した。			
		・専攻科は生徒の実態に応じて校内臨床室, 校外施設の見学(実習を含む)を1回以上行う。	・2学期, 3学期に実施する予定である。1学期には校内臨床室・校外施設の見学(実習を含む)に対応する基礎的実習を行った。			

重点課題	②未来につながる 幼稚園から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。				
重点目標	⑨教員と寄宿舎指導員による就業体験の引率をとおして、寄宿舎における生活指導の充実を図ります。				
	具体的な活動計画	評価指標	評価 評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況		学校関係者評価 学校関係者の意見
寄宿舎	・舎生の卒業後を見据え、教員と寄宿舎指導員による就業体験の引率をとおして明らかになった課題解決のため、自立支援室を活用する。	・学校のクラス担任と、就業体験後に反省点や課題についての共通理解を図る。 ・対象となる舎生が、1人年3回以上、自立支援室を利用する。	・7月に就業体験に参加する舎生の引率を行い、実態や課題についてクラス担任と共通理解を図った。 ・2学期に就業体験で明らかになった課題解決のために目標を定め、自立支援室を活用する予定である。		次年度への課題と今後の改善方策

重点課題	③地域とつながる 特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある幼児・児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をとおした活動を支援する。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守る。				
重点目標	④特別支援教育センターとしての機能を十分に発揮し、視覚障がい等のある乳幼児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開します。				
	具体的な活動計画	評価指標	評価 評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況		学校関係者評価 学校関係者の意見
サポート課	・教育、医療、福祉、療育等の各機関との連携を密にし、教育相談や通級指導教室のニーズを掘り起こす。	・関係諸機関の方が集まる研修等の機会に、年間5回以上チラシの配布を行う。 ・保育所や療育機関等において年間5回以上の視力評価の支援や研修を行う。	・現時点で「特別支援教育コーディネーター研修」「徳島ロービジョンネットワーク定例会」で相談関係のチラシを配布した。		次年度への課題と今後の改善方策



重点課題	③地域とつながる				
	特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある幼児・児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をとおした活動を支援する。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守る。				
重点目標	⑩防災避難施設として、地域の人々と連携した防災訓練等を行います。				
	具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価
			評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況	総合評価 (評定)	学校関係者の意見
渉外・安全課	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の防災避難施設としての役割を果たすため、地域住民と聴覚支援学校と連携した防災訓練を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の資源を活用するために、生きがいづくり推進員を招聘し、防災訓練を行う。</li> <li>地域の方や、聴覚支援学校と視覚支援学校の幼児・児童生徒が混在するチームを作り、協力できるように配慮する。</li> <li>幼小中学部及び高等部普通科の半数以上の幼児・児童生徒が参加することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚支援学校の担当者と話し合い、保護者と教職員向けの案内文書を作成し、配布を行った。</li> <li>6月20日に、地域の方と打ち合わせを行い、起震車や煙体験、竹笛作り、新聞スリッパ作り、非常食作りに内容を決定し、予約や係の確認を行った。</li> </ul>		
					次年度への課題と今後の改善方策

重点課題	④心がつながる 思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。					
重点目標	⑤幼児・児童生徒一人一人の人権を最大限に尊重するとともに、全教職員がいじめのない学校づくりに努めます。 徳島視覚支援学校と徳島聴覚支援学校の連携・協働した学習や行事等の教育活動(4つのつながり)を基盤とし、一人一人が尊重される人権教育を推進します。					
	具体的な活動計画	評価指標	評価 評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
生徒 活動 課	・いじめのない学校づくりに向け、外部から講師を招聘し、全教職員を対象としていじめ防止の研修を実施する。	・実施後のアンケートにおいて、教職員の「いじめ防止の意識が向上した」という回答を70%以上得る。	・実施後のアンケートにおいて、教職員の「いじめ防止の意識が向上した」という回答を70パーセント以上得ることができた。			
	・全教職員でいじめ防止に取り組むとともに、いじめの事案の発生については、早期発見と早期対応を行う。	・いじめの事案の発生をとらえたときには、できるだけ早く事態を把握するとともに、生徒指導委員会等を通して解決に努める。	・今年度7月3日現在のところ、いじめの事案は発生していないが、引き続き、いじめのない学校づくりに努めたい。			
	・いじめや犯罪に巻き込まれないために、在学中のみならず、卒業後も役に立つ知識が身につくよう、専門家を招き、各安全教室を2回開催する。	・携帯スマホ安全教室、薬物乱用防止教室を開催する。	・携帯スマホ安全教室は2学期、薬物乱用防止教室は3学期に実施予定。			
人権・ キャリア 教育課	・いじめをテーマにした生徒対象の人権教育講演会を実施し、生徒の人権意識の向上を図る。	・講演会後にアンケートを実施し、80%以上の満足度を得る。	・12月にいじめをテーマにした生徒対象の人権教育講演会を実施する予定である。			
	・合理的配慮を意識した授業を行うことで、幼児・児童生徒の人権を尊重できるようにする。	・11月に行われる人権教育主事研修会での研究授業、公開授業において、80%以上の指導案に合理的配慮を明記している。	・5月に職員対象の人権教育研修を行い、合理的配慮を意識した授業や指導案について共通理解をした。11月に行われる人権教育主事研修会の研究授業や公開授業の指導案について学部学科、人権・キャリア教育課内で9月に検討をする予定である。			

幼稚園	・活動中に、友だちや教員を意識できる場面を保育の中で設定する。	・朝の会の出席確認のときに、呼名された友だちや教員の方を向いたり、指さしをしたり、手に触れたりする。	・呼名時に、周囲を見渡して教員を探そうとしたり、挨拶をしながら手に触れて確認したりした。友だちの出欠を確認することもできている。		
		・制作やおやつ時間に、順番を待ったり、用意された物を友だちに配ったりする活動を取り入れる。	・おやつを友だちの机に持って行ったり、配られるのを待ったりすることができた。		
		・ふれあいコーナーに掲示する作品を、年間3回以上共同で制作する。	・2名での共同制作が1回でき、朝顔の葉を手型で制作し、ふれあいコーナーに掲示した。		

重点課題	④心がつながる 思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。					
重点目標	⑫奉仕活動や環境・エネルギー活動、啓発活動をととして、地域とのつながりを深めるとともに、視覚障がいに対する理解の推進を図ります。					
	具体的な活動計画	評価指標	評価 評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況	総合評価 (評定)	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
小学部	・地域の商店に「点字ブロックの日」の啓発チラシ付きのティッシュを置いてもらえるように依頼に行く。	・年2回実施する。 ・5店舗以上の地域の商店に依頼する。 ・依頼後、各商店へティッシュを置いてもらったお礼に行く。 ・チラシ入りのティッシュを聴覚支援学校の児童と共に200個作る。	・2、3学期に実施予定。			
高等部 普通科	・聴覚支援学校や城南高校文化祭の展示の部に参加し、視覚障がいに対する理解啓発を行う。	・交通安全や視覚障がいへの理解に関しての理解啓発パネルなどを作成し、説明、展示をすることができる。	・視覚障がいの支援用具や機器などについてのパネルを作成した。2学期に聴覚支援学校と城南高校文化祭が行われるので、説明や展示を予定している。			
高等部 職業学科	・校外臨床実習を実施することにより、地域住民とのふれあいの中で本校や視覚障がいに対する相互理解を深める。	・例年実施している八万地域での校外実習の3回に加えて、他の地域でも校外臨床実習を実施する。	・7月に金泉寺にて校外臨床実習を実施した。			
サポート課	・地域の学校において行われる視覚障がい教育や視覚障がい理解に関する研修や学習支援を通して、視覚障がいに関する理解の推進を図る。	・地域の教員を対象とした視覚障がいや視覚障がい教育の理解啓発に関する研修を年間5回以上行う。 ・視覚障がい理解に関する学習の支援を年間5回以上行う。	・2学期に実施予定。			